

¡ HOLA ! PARAGUAY

～ パラグアイからこんにちは！～

2019.10 vol. 5



1. 新隊員が来ました！

パラグアイは10月に入り、春から夏への季節の変わり目で雨の日が多いです。帯広はもう寒くなってきているのではないのでしょうか。みなさんお身体にお気をつけてくださいね！そんな今回は、8月に新たに派遣された JICA 青年海外協力隊の長期隊員2人の紹介です。

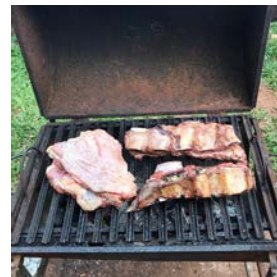
2. 隊員紹介

Encarnación 派遣の長期隊員、森松沙紀（もりまつ さき）です。今は大学院に籍をおいて、JICA 青年海外協力隊（以下ボランティア）に参加しています。学部生の頃は、「家畜生産科学ユニット」、ゼミはアコスタ研究室で水牛の繁殖について研究をしており、部活はバスケットボール部に所属していました。講義で家畜について学ぶ中でもっと知りたいと思うようになり、その中で世界には農業に関する問題が多くあることを知り、その問題解決のために自分も何かしたいと思い、ボランティアに参加しました。



パラグアイに来て思うことは、みんな優しくてのんびりとしていることです。自分がスペイン語を上手に話せなくても、理解してくれようとしてくれます。自分も早くスペイン語を理解できるようになりたい。ちなみにパラグアイには、スペイン語とは別に「グアラニー語」という現地語があります。大人や年配の方には、グアラニー語だけしか話せない人や、スペイン語に交えて話す人がいます。今はスペイン語でいっぱいいっぱいですが、少しずつ学んでいこうと思います。

パラグアイ人は、肉や揚げ物をよく食べます。そして量が多い！それに美味しいのでついたくさん食べてしまいます。気を付けようとは思のですが、ステイ先のお母さんの「もっと食べなさい」の言葉に負けてしまいます。ちなみにパラグアイで一番好きな食べ物は、アサードです。アサードというのは肉の塊を炭火でじっくり焼くパラグアイの焼肉料理。お母さんの甘い言葉に負けないう、頑張ります。



3. 隊員紹介

Carmen del Paraná 市派遣の長期隊員、向井歩（むかい あゆみ）です。実は、2014 年の夏休み（当時大学 4 年生）に FOPROLEI 第 1 フェーズの JICA 短期ボランティア第 3 次隊として活動していました。2014 年というと今読んでくださっている学生の皆さんは、まだ中学生だったかもしれませんね。大学卒業後は社会人をしていましたが、パラグアイの経験が忘れられず、5 年の歳月を経て、再びパラグアイに戻ってきたわけです。写真はその 5 年前の活動の時のものです。



在学中は、当時の「家畜生産科学ユニット」、ゼミは木田研究室、サークルは YOSAKOI ソーランの ExclamationN に入っていました。社会人になってからは、酪農教育ファームに勤務し、搾乳や飼料給与などの飼養管理や、チーズやアイスクリームなどの製造・販売、出前授業や酪農体験（写真）をしていました。

パラグアイに来て一番感動しているのは、フルーツが豊富なこと。何の世話もせず、季節が来たらどっさり木になっています。そして甘い！赤土の肥沃な大地だからこそですね。今こちらは春の始めですが、これから桃やブドウ、マンゴーやスイカなどなど日本でもおなじみのフルーツがただ同然で手に入るそうです。めちゃくちゃ楽しみです。ちなみにオレンジは写真のように皮をむいて、ニギニギしながら中の果汁だけを飲みます。なんて贅沢！



4. おわりに

「人生何が起こるかわからない」とよく言われますが、まさにそうで、在学中はもちろん社会人になって数年は、まさか私がパラグアイに 2 年も行くことになるなんて 1 ミリも思っていませんでした。もしかしたら今これを読んでいる皆さんも、近い将来短期隊員もしくは長期隊員でパラグアイに来ることになるかもしれませんね。私たちの任期は、2021 年の 3 月末までです。それまでに FOPROLEI の活動はもちろん、パラグアイの魅力をたくさんお伝えして、皆さんがパラグアイに興味を持ってくださるよう頑張ります！